

AQUAXMGRID イニシアチブ & ALANコンソーシアム

フードテックシンポジウム 演題 6

強みをルールに。食品・農林水産業分野の
戦略的な国際標準化



農林水産省官房新事業・食品産業部食品製造課基準認証室国際班
課長補佐
山田 健太郎



リアルタイム翻訳 Wordly

ルールを強みに

食品・農林水産業分野の戦略的な国際標準化

令和8年3月17日

農林水産省基準認証室

国際標準化をめぐる状況:内閣府「新たな国際標準戦略」(令和7年6月決定)



国際標準戦略のポイント① 担い手の強化

- 担い手である企業やアカデミアの取組強化に加え、専門サービスや専門人材の育成が不可欠。
- 標準の積極活用や、専門サービスや専門人材が活躍できるような市場が必要。
- 国際連携を通じて、アジア域やグローバル単位での担い手・ネットワーク強化。
- 官民一体として国際標準活動を進めていくために官民による司令塔を設置。

<企業・アカデミア>

経済界や金融界への働きかけ
(官民連携の場を通じた経営層へCSOの設置や投資家理解促進等)

学术界への働きかけ
(国研等における職員の国際標準活動の適正な評価の促進等)

研究開発段階の標準化支援
(国の研究開発事業における標準化支援の組み込み等)

<専門人材・専門サービス>

人材育成システム強化
(各省庁による人材育成・デジタルプラットフォームによる育成・データベース整備等)

専門サービスの育成・強化
(企業とのミスマッチ解消、分野横断的な連携の促進、海外連携、試験設備強化等)

標準・認証の積極活用
(産業政策としての規制・規格・認証の一体的推進(ニューアプローチ)の検討、国内規格や独自規格の策定の拡充、公共調達等における標準・認証の活用等)

<国際人材・ネットワーク>

人材育成での国際連携とネットワーキング
(国際的な人材育成、国連機関や国際機関への積極参画等)

各国との連携強化
(ISO・IEC・ITUや各領域におけるアジア域での連携、国際相互承認の促進による認証機関の育成・強化等)

国際会議の招致
(国際標準に係る国際会議の日本招致、日本で開催される国際会議での国際標準アジェンダ化等)

官民連携の場の設置

(モニタリング・フォローアップや戦略見直しのための官民連携、デジタルプラットフォーム、在外の官民ネットワーク等)

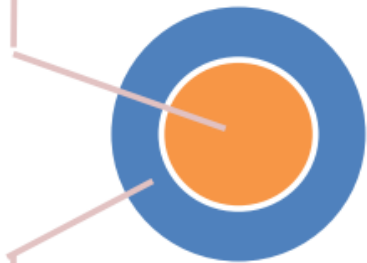
国際標準化をめぐる状況:内閣府「新たな国際標準戦略」(令和7年6月決定)



社会的課題への対応、市場創出等を目指し、戦略的な国際標準化の推進へ

戦略領域

➔重要領域の中でも、現在国内外の国際標準活動が動いており、対応の緊急性が認められ、追加支援、あるいは現在と同等の支援の継続が必要な領域
 ➔各省庁や内閣府による優先支援対象/官民連携の上でのアクションプラン・ロードマップ作成支援の対象/モニタリング・フォローアップ対象

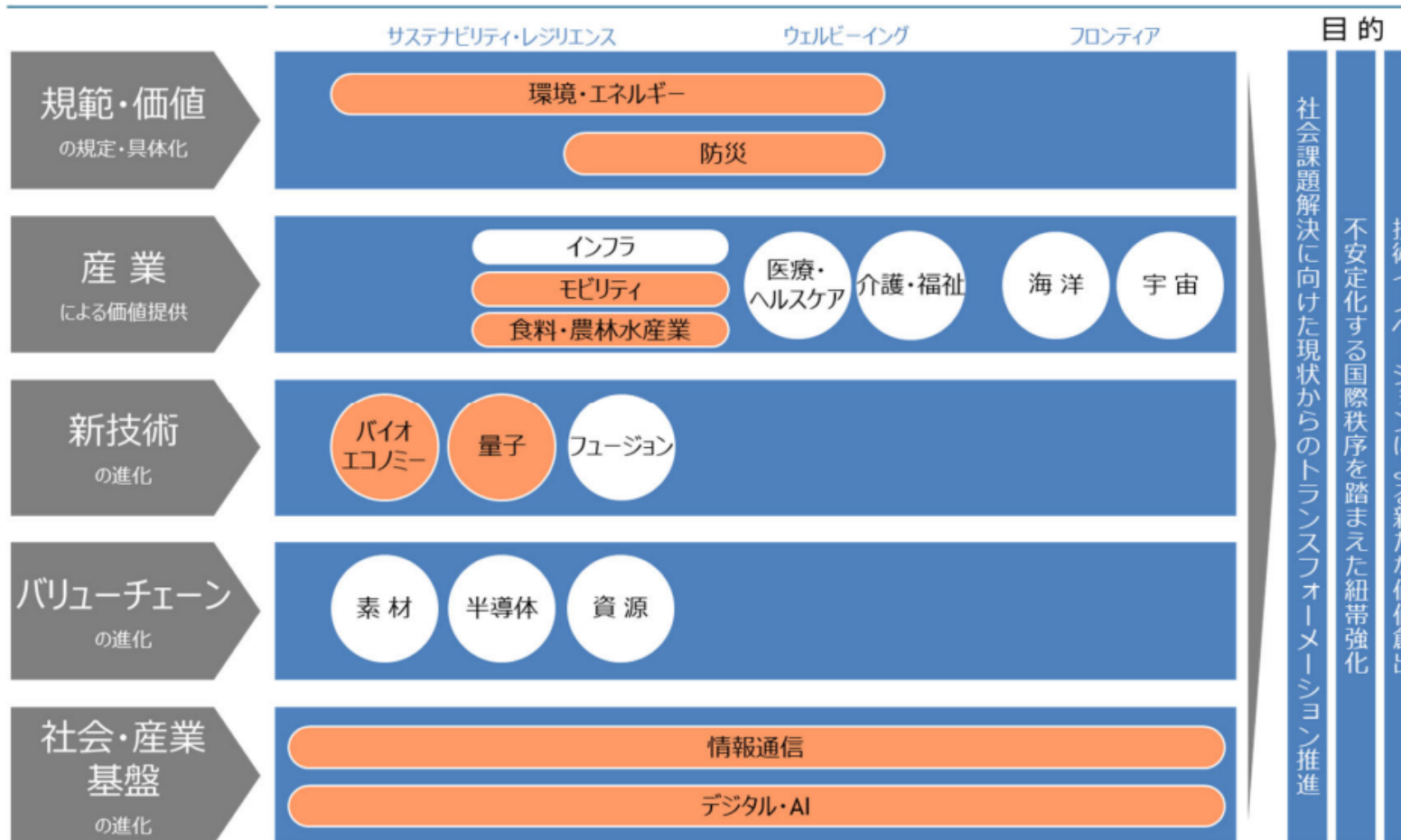


重要領域

➔我が国の強みや実現可能性、一定の市場規模が認められ、我が国にとって重要な領域と判断されるもの。
 ➔中長期的な観点から支援

標準戦略のアウトカム

● 戦略領域候補 (緊急性が高く直近で支援が必要なもの) ○ 重要領域候補 (中長期的に取り組むもの)



(内閣府知的財産戦略推進事務局, 2025)

国際標準化をめぐる状況:「強い経済」を実現する総合経済対策(令和7年11月閣議決定)

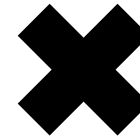
- ・「強い経済」を実現する総合経済対策にて、官民連携投資を行う戦略分野及びサプライチェーンの強化を図る重要物資について、国際標準化の観点も含めた総合支援策を講ずることとされた。
- ・食料・農林水産分野の経済対策においても、国際標準化を一層活用する時代へ

官民連携投資を行う戦略分野及びサプライチェーンの強化を図る重要物資

AIの開発・社会実装とそれを支える半導体・データセンターの支援
造船業の再生・強化
量子技術イノベーションの加速
フュージョンエネルギーの早期実現
創薬・先端医療の推進、国内製造拠点の整備等
合成生物学・バイオの開発強化
航空機産業の生産基盤強化
宇宙・海洋開発の推進
フードテックへの投資促進
重要鉱物の安定供給及びマテリアル革新
次世代の情報通信基盤の強化
港湾ロジスティクスの強化
リスク点検等を通じたサプライチェーンの強化・「特定重要物資」の支援強化

総合支援策に含まれる観点

大胆な投資促進
国際展開支援
人材育成
スタートアップ振興
研究開発
産学連携
国際標準化

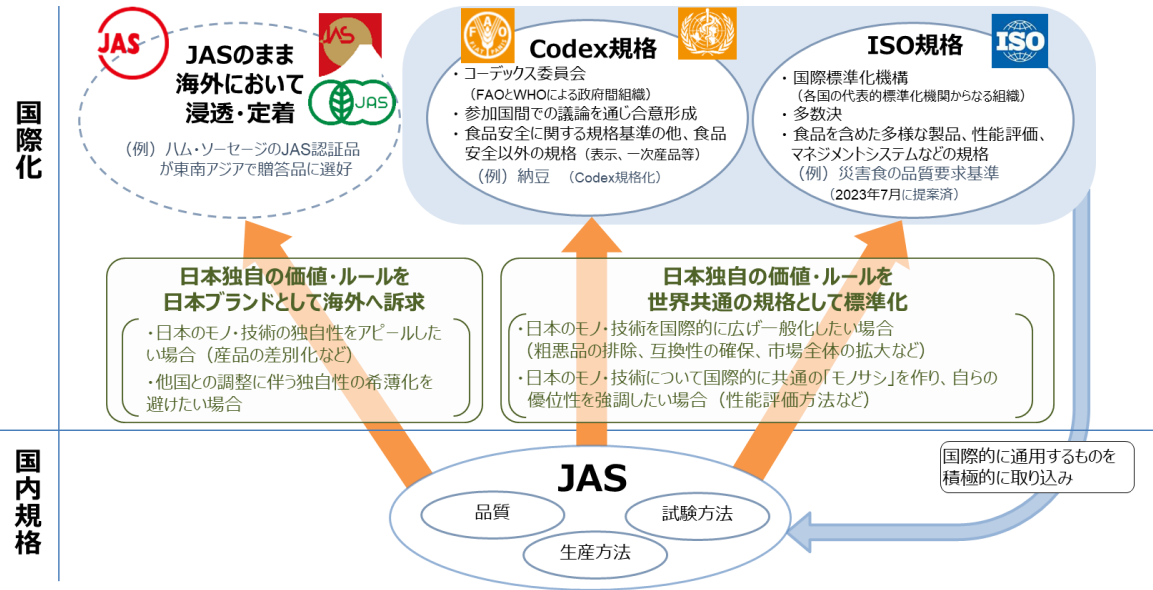


(「強い経済」を実現する総合対策)(https://www5.cao.go.jp/keizai1/keizaitaisaku/1121_taisaku.pdf)を元に発表者が整理)

食料・農林水産分野の国際標準化に係る施策例

★JAS(日本農林規格)等の国際標準化

★食料・農林水産分野の国際標準戦略作成



食料・農林水産業の国際標準戦略素案

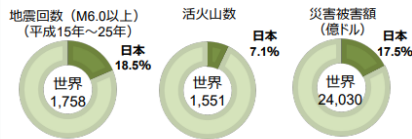
鋭意作成中

2026年1月27日
株式会社野村総合研究所

「災害食の品質要求事項」のISO規格化による輸出への貢献

現状及び課題

▶ 我が国は、地質、気象などの自然的条件から、地震等の災害が発生しやすい国土。世界的に見ても日本の災害発生割合は非常に高く、古くから防災のための技術、知識が蓄積されているところ。



▶ 避難状況に応じた食料支援、要配慮者への対応、栄養状態等に課題があり、長期保存のみならず、多様なニーズに応じた災害時の食対応が必要に。

▶ 国内には、世界に先駆けた災害食の民間認証制度が存在。各国防災の取組貢献に向けた、本制度に沿った備蓄のシステムとそれに資する加工食品の海外普及促進のためには、国際規格化 (ISO規格化) が有効。

- ✓ 日本災害食認証制度
食品安全、災害に適した食品基準を規定
- ✓ おもいやり災害食認証制度
上記基準に要配慮者毎の基準を追加



戦略的な規格策定

各国における関心の高まりも背景に、我が国に優位な市場を形成するため、**国際規格の制定に向けた取組が進められている。**

・日本が他国に先駆けて2021年に災害食ISO委員会を設置し、検討を開始。

・2023年7月 ISO/TC34 (食品) に「**災害食の品質要求事項**」を新たに規格開発する新作業項目として提案。

・2023年10月 各国からの投票の結果、賛成多数により承認。

・2024年1月 ISOのWGで各国の専門家と規格内容の検討を開始。

・災害食の民間認証の基準をベースとし、災害食の品質、安全性、保存性等最低限備えるべき条件と、様々なニーズに応じるための任意の追加要件のISO化に向けて取組が進められている。

▶ 国際的な災害食市場の拡大と我が国産品の優位性が向上することにより、**輸出増に寄与**

▶ 我が国の**食品加工・品質管理・評価技術を世界に展開**

国際規格化による効果

▶ 国際規格により、災害対策の仕組みとして備蓄習慣を海外に普及することが可能となり、**災害食としての国際マーケットが拡大**



▶ 国際規格により、**我が国産品の付加価値が見える化され、海外における取組増加に寄与**



食料・農林水産業分野の国際標準化①事前の検討(輸出拡大の例)

まずは自社商材や日本製品の強み・差別化要素、及びマーケット獲得の方法を検討した上で、標準化が貢献し得るかどうかを検討することが重要

環境分析

- 市場における自社・日本製品の立ち位置や優位性を明確化



競合の把握

- 競合企業の動向
- 他国の標準化の取組



自社・自国の把握

- 自社・自国の商材の商品特性
- 自社・自国の強み・差別化要素
- 自社・自国の弱み・課題

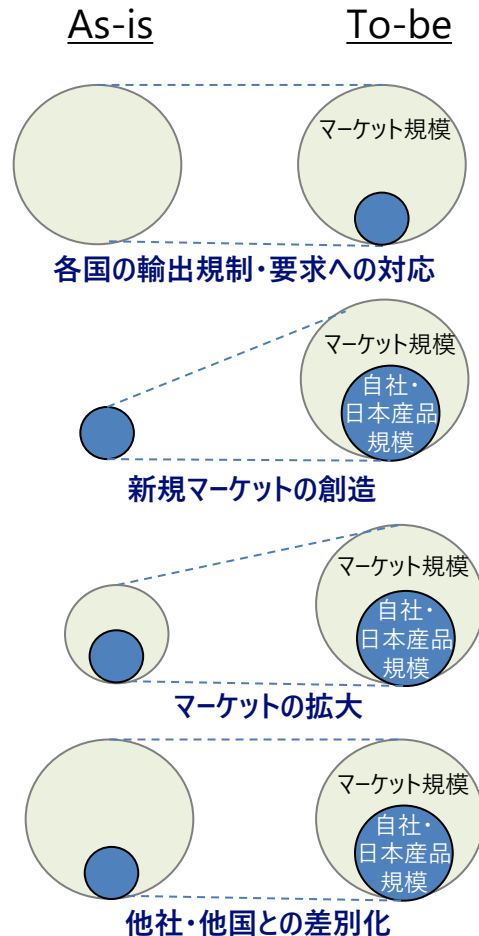


顧客の把握

- 小売・流通業者のニーズ
- 消費者のニーズ
- 各国固有の規制等

マーケット獲得の方針

- 自社・日本製品の事業規模拡大の方法を決定



戦略策定

オープンクローズ戦略

- 各オプションを踏まえ、標準化をツールとして選択するかどうかを検討

ブラックボックス

知財独占

知財ライセンス

開示

標準化

規制化

マーケティング戦略

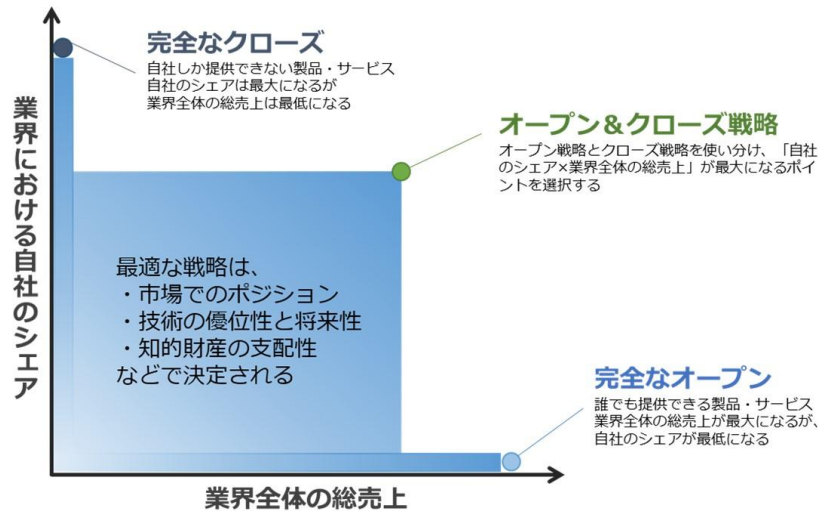
- 4P戦略(製品、価格、流通、販促)等の検討

引用元 (一部改変) : https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_system/attach/pdf/index-119.pdf

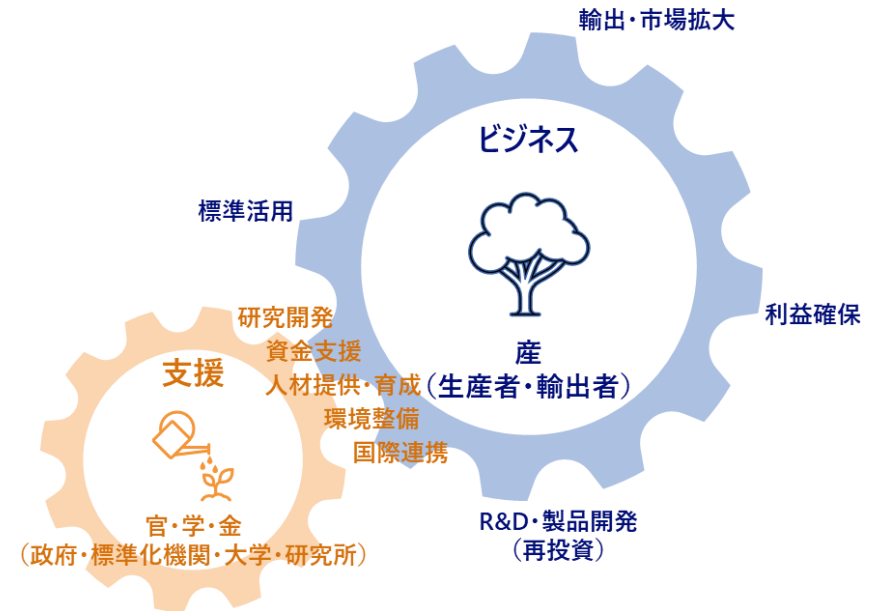
食料・農林水産分野の国際標準化②オープンクローズ戦略及び取組体制

- ・オープンクローズ戦略に基づいて取組む場合、自社の製品・サービスをどのように世に出したいか、その中で知財と標準をどのように使い分けたいかを考えておく必要
- ・規格を作る場合は、規格作り及び適合性評価の産学官金体制を事前に整備し、規格の活用者を想定しておくことが必要

★オープンクローズ戦略の概念図

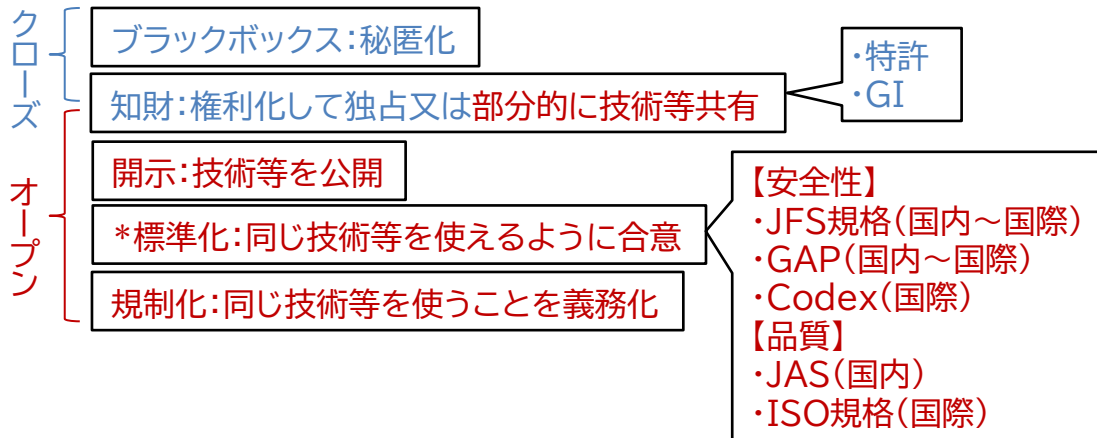


★産学官金による取組体制(案)



((株)野村総合研究所作成資料より引用(<https://www.maff.go.jp/j/jas/kaigi/sennryaku.html>))

★食料・農林水産分野の事例 ※発表者の私見に基づく簡易な整理です



食料・農林水産業分野の国際標準戦略③標準化人材・スキルセット

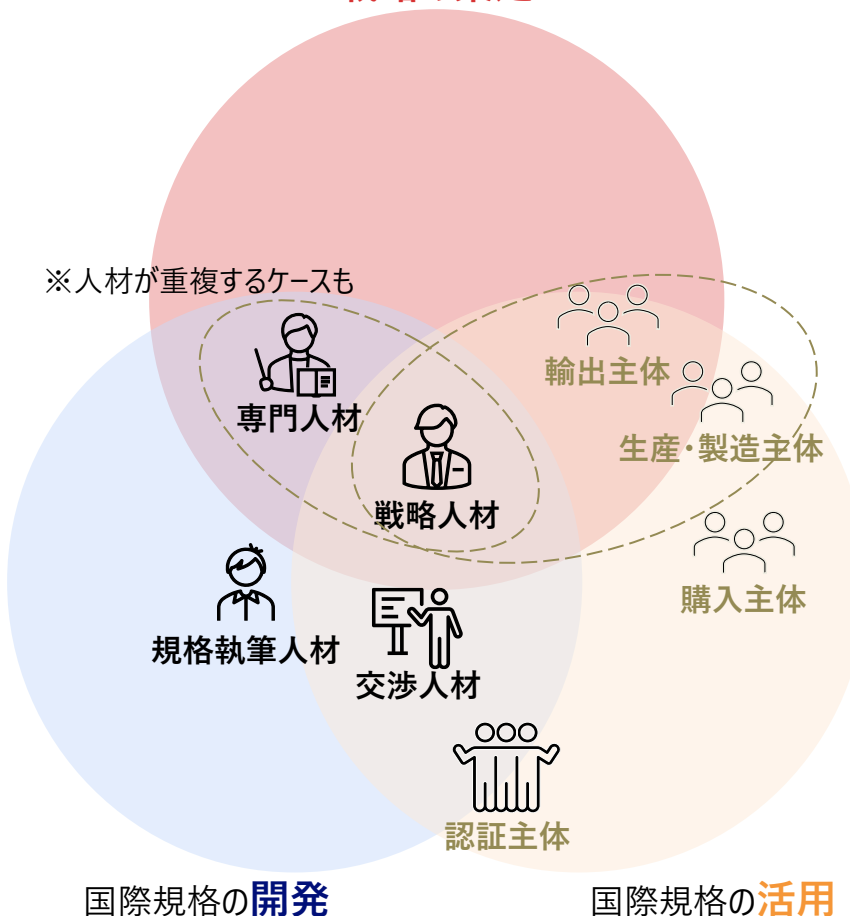
- ・輸出拡大に寄与する標準化活動は、4つのコア人材を中心に連携して推進することが必要
- ・明確化のため各機能を個人に分けて整理しているが、実際はチームで各機能を担う

全体で共有可能
 分野・品目ごとに必要
 規格ごとに必要

国際標準化のステップで必要となる人材

対象ごとの規格開発・活用
戦略の策定

※人材が重複するケースも



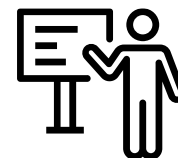
コア人材



戦略人材

分野・品目ごと

- ・規格をツールとしてどのように輸出を拡大するか、どのような規格が必要か、開発から活用までの戦略を描き実行する
- ・複数人でこの役割を担う



交渉人材

共通

- ・規格のニーズを踏まえて、規格化のアドバイスやサポートを行う
- ・国際会議で規格開発までの戦略を立て、仲間を増やしながら落としどころを見つける



専門人材

規格ごと

- ・標準化対象の専門家
- ・規格のニーズを戦略人材から受け取り、交渉人材・規格執筆人材とともに規格を練る
- ・国際会議にも参加する



規格執筆人材

共通

- ・規格のニーズを踏まえて、規格化のアドバイスやサポートを行う
- ・目的に基づいて規格を執筆、更新する

適宜連携

連携

生産・製造主体
 規格を使い
 生産・製造

輸出主体
 規格を使い輸出

購入主体
 規格による
 付加価値を認め購入

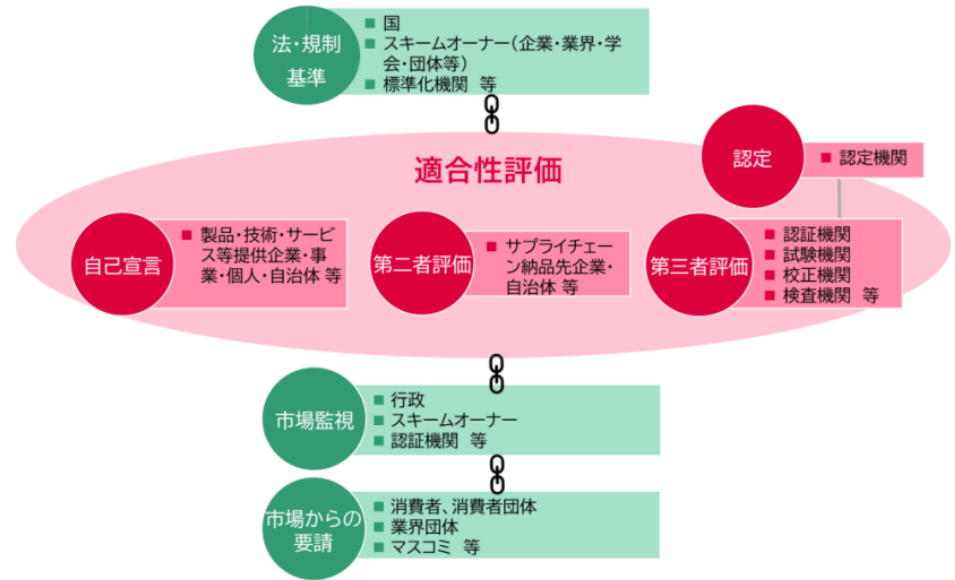
認証主体
 規格に基づき認証

引用元：https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_system/attach/pdf/index-119.pdf

食料・農林水産業分野の国際標準戦略④規格化プロセスの検討

規格作りと適合性評価は一体であるため、どのような国際標準化を行いたいかという目標のもと、規格の内容だけでなく、適合性評価のスキームやスキームオーナーも事前に検討しておく必要

規格の対象による分類	
基本規格	用語の定義や単位等の製品に係る基本的な要素を規定
試験方法規格	測り方（試験・検査方法）等を規定
製品規格	製品に関する品質基準や成分等を規定
プロセス規格	生産工程や流通方法等を規定
マネジメントシステム規格	マネジメントシステム等を規定



((株)野村総合研究所作成資料より引用(<https://www.maff.go.jp/j/jas/kaigi/sennryaku.html>))

(IAJapan, 2023: 適合性評価ガイドブック2023)



食料・農林水産業分野の国際標準戦略④国際規格化(ISO規格の例)

★ISO規格制定までのプロセス






関連文書の名称	略称
新業務項目提案 New work item proposal	NP
作成原案 Working draft	WD
委員会原案 Committee draft	CD
国際規格案 Draft International Standard	DIS
最終国際規格案 Final draft International Standard	FDIS
国際規格 International Standard	IS

※CDは省略可能。
※FDISは原則省略(選択制)

具体事例(花き業界総合認証プログラム(MPS))

MPSはオランダにて開発され、現在は国際的な認証システムとして活用されている。サプライチェーンの川上から川下までの各段階で規格及びその認証スキームが存在しており、花きの品質を担保している。

※各認証マークは構成する認証をすべて取得した場合に使用可能


		MPS (花き産業総合認証)								
サプライチェーンフロー	生産・製造					販売・消費				
	保管・流通・包装									
認証システム(ターゲット別)	生産者向けMPS				市場向けMPS		流通向けMPS			
	MPS Florimark Production (花き生産総合認証)				MPS Florimark Auction (花き市場総合認証)		MPS Florimark Trade (花き流通総合認証)			
										
	認証マーク				認証マーク		認証マーク			
上記を構成する規格・認証	MPS ABC	MPS GAP	MPS SQ	MPS Q	MPS GPA	ISO9001	Florimark Trace Cert	Florimark GTP	ISO 9001	
規格・認証内容	環境	生産工程管理	社会的責任	品質	トレーサビリティ + 市場工程管理	経営改善 + 品質管理	トレーサビリティ	トレーサビリティ + 流通工程管理	経営改善 + 品質管理	

引用元： https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_system/attach/pdf/index-119.pdf


具体事例(花き業界総合認証プログラム(MPS))

オランダにおいては、オランダ花き協会がオランダ産花きの輸出拡大に向けた活動を行い、MPSが独自の認証スキームの開発を通じた花きの標準化活動を推進している。

推進団体の概要

標準化に関する取組み推進	組織名	<ul style="list-style-type: none"> MPS 
	団体の役割	<ul style="list-style-type: none"> オランダ国内の花きの生産者らにより立ち上げられ、認証(MPS)の開発による花きの標準化活動を推進 <ul style="list-style-type: none"> 花き業界の環境負荷低減に関する認証であり、花き産業の川上～川下までをカバーする認証スキームであるMPSの開発

連携

輸出に関する取組み推進	組織名	<ul style="list-style-type: none"> オランダ花き協会 
	団体の役割	<ul style="list-style-type: none"> オランダ国内の花きの生産者団体、商業者団体から構成されており、業界課税を原資にしたマーケティング活動を推進 <ul style="list-style-type: none"> 国ごとの花きの消費動向の分析 オランダ産花きの国別のプロモーション戦略の策定・実行

標準化を活用した品目

- 欧州における花き取引においてMPSの取得が条件化している
- 店頭で販売されている商品にもMPSの認証ラベルが貼付されている場合がある*



専用HPにて参照

生産者に関する情報

農薬の使用量ランク

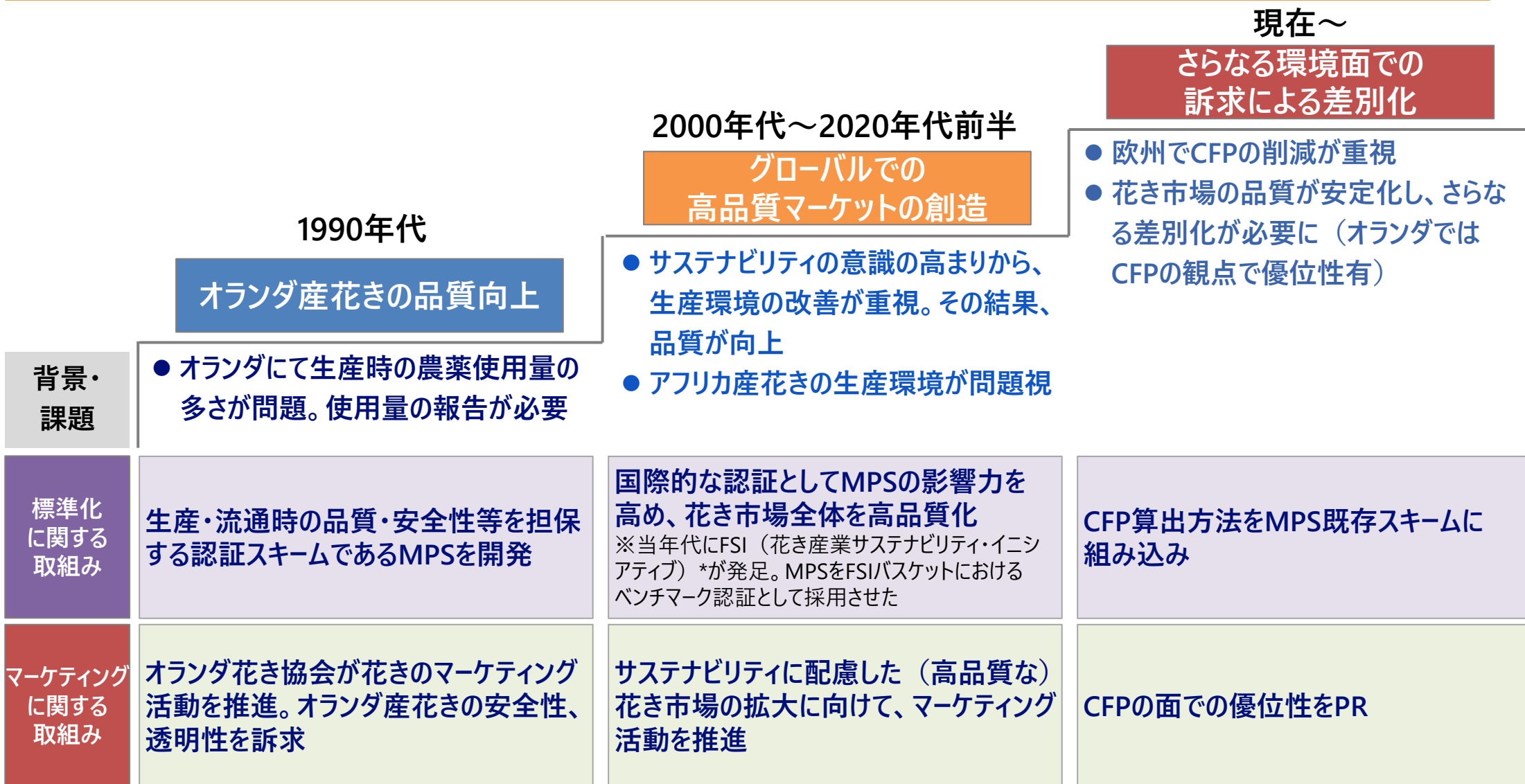
Status MPS-ABC
A+

*ラベル添付は義務化されていないため、全てのものについている訳では無い

引用元：https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_system/attach/pdf/index-119.pdf

具体事例(花き業界総合認証プログラム(MPS))

花きの品質の規格化により、自国産の品質向上・高付加価値市場創出を実現してきた。現在はカーボンフットプリント(CFP)訴求による他国との差別化を図る。



*欧州、アフリカ、南米等の花き分野のステークホルダーにより構成される民間組織。FSIを包摂するIDH

（持続可能な貿易イニシアティブ）をオランダ政府が牽引していることからオランダの影響力が強い

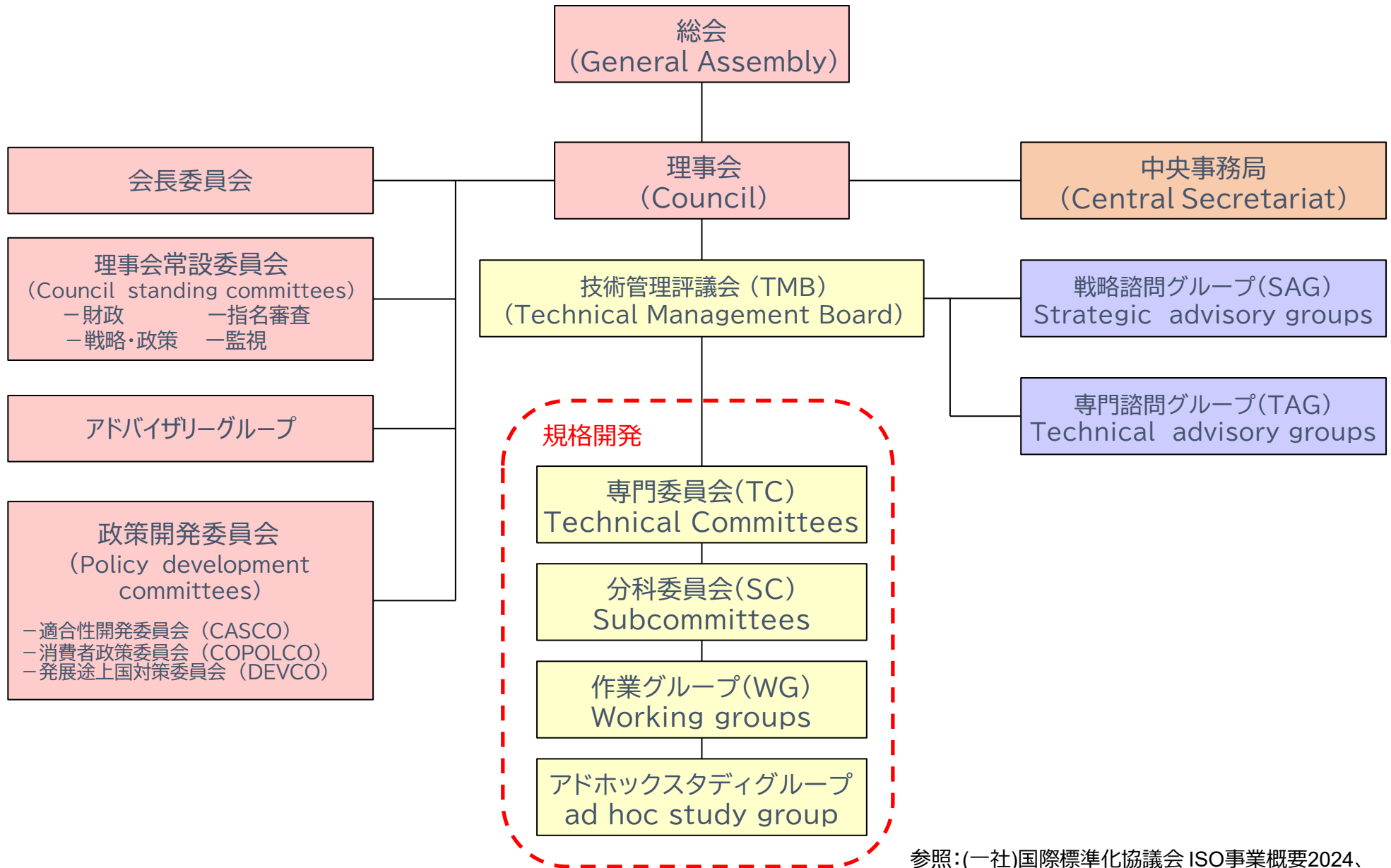
引用元：https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_system/attach/pdf/index-119.pdf

国際標準化への取組のポイント



- ビジネスの中でどのように標準を活用したいか検討する。
- 規格・認証を活用する場合、作成者及びスキームオーナーを決定しておく。その際、ユーザーを想定し、検討体制チームに入ってもらおう。
- 食品の場合、まずは安全や宗教等、規制に対応する認証を取得することが大事。それ以外の規格等はその先にあるものなので、戦略性をもってビジネスプランに組み込むことが重要。また、認証を活用したビジネスを考えるのも手。
- ISO規格であれば、国内体制整備から規格制定まで5年程度はかかる。また、国際的な活動が必要となり、多大な経費(数千万円)がかかる。当該期間のリソースをどのように確保するか、考えておく必要。
- 一度走り始めると、「長いお付き合い」になる。後任の人材育成等、中長期の人事を見据えながら、組織的に対応することが望ましい。

(参考1)ISOの組織



参照:(一社)国際標準化協議会 ISO事業概要2024、
日本産業標準調査会ウェブサイト及びISOウェブサイト

(参考2)ISOにおける国際規格の開発

ISOでは、専門委員会(TC)/分科委員会(SC)が中心となって規格開発を進める。TCあるいはSCの下にWGが設けられることもある。

Participating member(Pメンバー)

TC/SC内のすべての事案への投票義務を負って、業務に積極的に参加し、会議に出席する。

Observing member(Oメンバー)

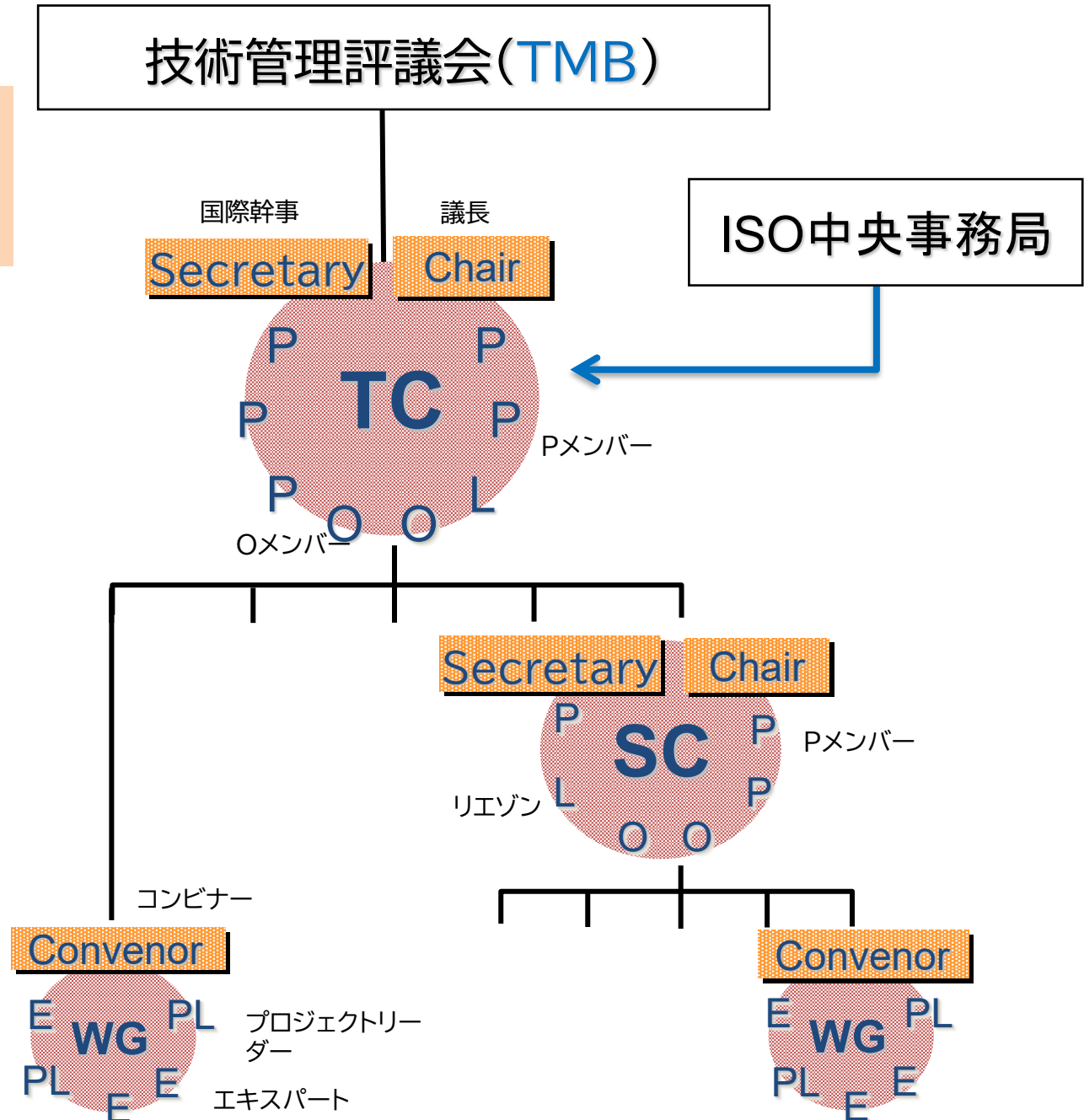
オブザーバーとして参加。文書の配布を受け、コメントの提出と出席の権利を持つ。

Expert(エキスパート)

親委員会のPメンバー又はリエゾン機関から任命され、個人の立場で活動し、その専門性により規格開発に貢献する。

Project Leader(プロジェクトリーダー)

プロジェクトリーダーは、規格開発プロジェクトの推進に関して責任をもつ。



(参考3)ISOに関する国内体制



国際体制(ISO側)

国内体制(MB側) = JISC

